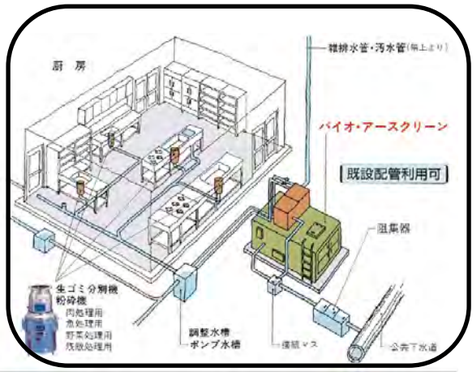
目標12 つくる責任 つかう責任

目標13 気候変動

発生源で、生ごみをデイスポーザ活用で最大限に削減し、紙・プラスチック主体の資源として活用
企業にとり、極力ごみの消滅と資源化も起票によりSDGs(持続性ある開発２目標達成に貢献)

デイスポーザは、米国では100年も前から各家庭や集合住宅等で大量導入され、生ごみを発生させません。
ごみは紙類とプラスチックごみが主体で、エネルギーを使わないで、温風ごみ焼却・各種資源の回収・バイオ発電で再生エネルギーに変換します。

家庭用デイスポーザ



下水道へ

食品加工工場など業務用デイスポーザからの食品渣

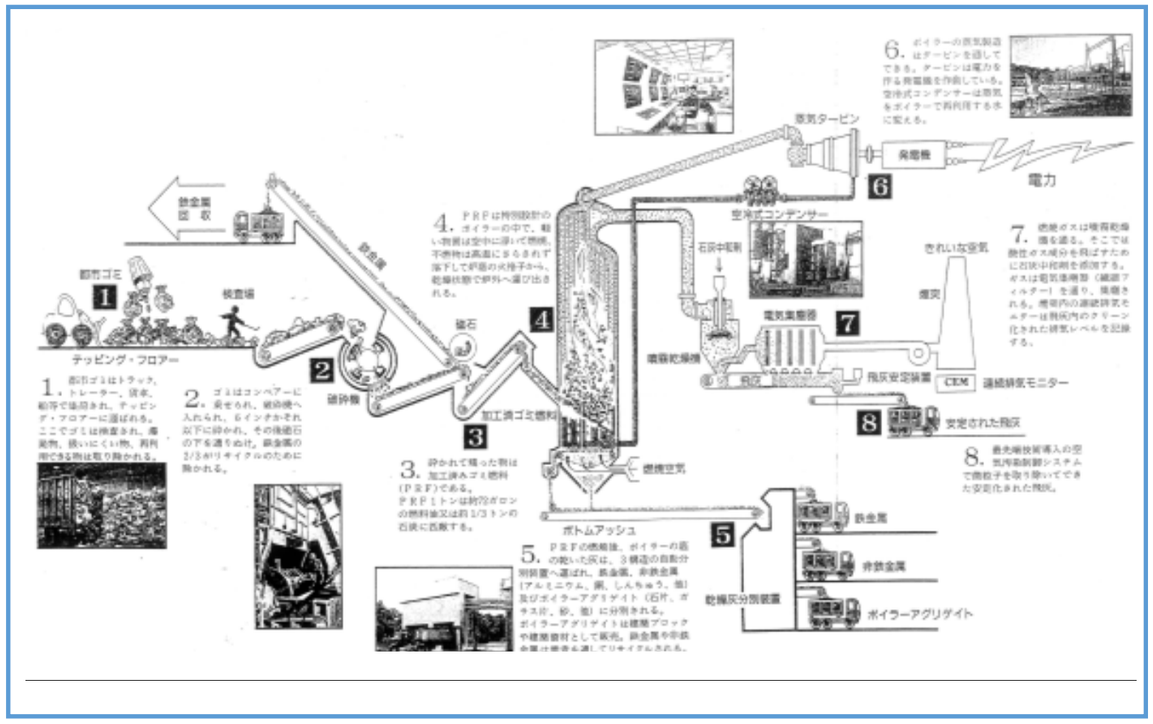
●生ごみのデイスポーザ処理が入口です

生ごみを家庭で、ホテルやレストラン、そして市町村単位で、デイスポーザで破砕して、その場で下水道に流す、フルボ酸をかいして、資源化する、あるいは消滅させるなど対策が必要です。

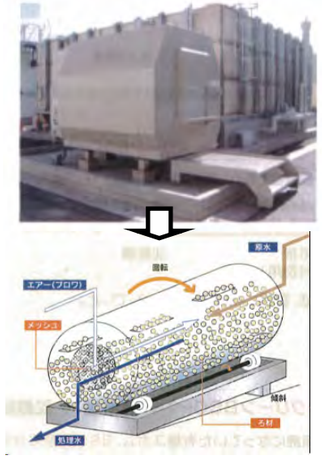
いま日本中にあるゴミ焼却場や産業廃棄物処理施設では、水分の多い生ごみの対応のために、熱源のほぼ90%が費やされていると報告されています。また沸点の低い水銀や、ダイオキシンを始めとして、環境に放出されている有害物質の発生も大幅に抑制可能です。

大規模化が可能なごみ焼却場を誕生させ、地域の最も重要な産業基盤を構築することとなります。

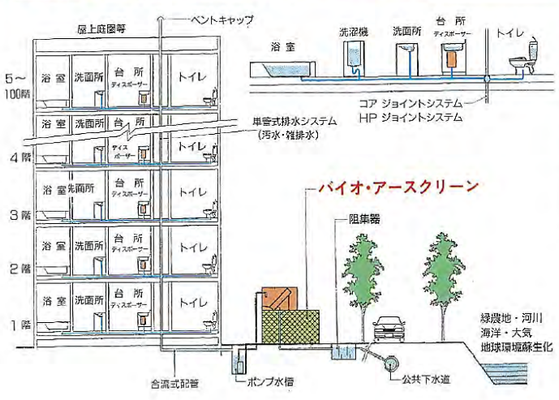
ごみ焼却・資源回収・バイオ発電機能



フルボ酸パワーで微生物を活性化させて消滅させます



システム例《複合建物》…中高層マンション・団地・コミュニティープラント・等



集合住宅などにおいて各住戸に粉砕機を設置し常時生ゴミ処理ができる環境を整えることで衛生的な生活環境を実現する事ができます。
生ゴミがなくなることでゴミ収集場所の省スペース化と衛生面の向上も同時に図れ〝カラス・野良猫〟対策にもなる最適なシステムです。
もちろん既設の建物にも対応でき、また建物の評価アップにもつながる効果が期待できます。
(実績例・ライオンズマンションなど)

稼働率100%を誇るアースクリーン システムの主な実績例

防衛大学校 500kg／日機

三洋電機㈱東京工場 200kg／日機